

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



年間、約12,000トンのゴミが伊勢湾の海岸に流れ着いている。

加速する
脱プラスチック

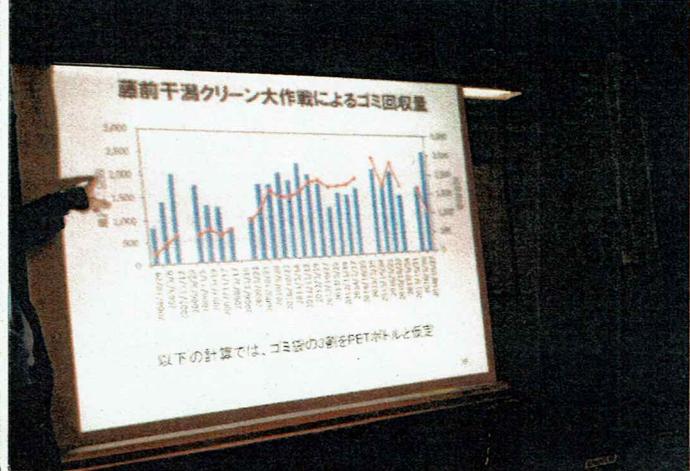
プラスチックゴミによる海洋汚染が世界的な大問題となっている。環境問題の突進と、脱プラスチックが日本の産業に与える影響を考察する。

海洋汚染の観点で特に問題視されているのは、マイクロプラスチックと呼ばれるプラスチックの破片や粒だ。ペットボトルの破片や粒など、自然環境に流出したプラスチックは最終的に河川から海へ流れ、海洋に漂いながら紫外線や波の力で小さく細分化され、マイクロプラスチックに変化していく。ほかにも、プラスチックの中間原料であるレジジン、レフトが工場から環境中に流出



日本赤松に積み上げられた廃棄物

し、化学処理や燃焼処理など、スクラップとして取り分けられる。マイクロプラスチックは、以下のようなマイクロプラスチックが下流に流出し、水産資源を汚染し、生態系に悪影響を及ぼす。また、マイクロプラスチックが海を漂うと、魚や鳥の誤食の原因となる。



以下の計算では、ゴミ袋の3割をPETボトルと仮定

これをクワや海鳥、魚として動物やプランクトンのような食物連鎖の下位に位置する生物までが餌と間違えて食べてしまっている。

2050年に海中のプラスチックの重量が海面のそれを超える。これは英国のエンレンマンカーサー財団が16年の世界経済フォーラム（ダボス会議）で報告した数字の一つだ。木イ拾ってなどで放棄されたプラスチック廃棄物は最終的に海洋へ流出しており、何の対策も講じない場合は、25年までに魚よりもプラスチックゴミのほうが多くなる。海洋の生態系や漁業などの経済活動にも多大な影響を与える懸念が、多くの研究者からは示されている。

日本政府は自国で開採する2020年に向けて、環境省の中央審議会で東海地方の企業を代表とする「独自削減計画」の策定を急ぐ。事業では、レジ袋の有料義務化など、具体的な対策も示されており、コンビニなど、廃業や消費者の購買行動への影響もいさぐちない。脱プラスチックは既存産業の変革を促す一歩を踏み出す可能性もある。



十薬賢一氏、教授、工学博士、四日市大学環境情報学部の研究に詳しい。

